

## 円ドルはすでに適正水準? (2013年2月6日)

円安が進んでいる。**足元では1ドル=92円台**、1ユーロは124円台で、この3ヵ月でそれぞれ15%、20%も下落した。

円安は、経済再生の特効薬の一つだと考えられている。もっと円安を進めるべきだとの声もある。実際、円安は輸出企業の競争力を高め、収益を増やす。最近の株価上昇はそれを反映している。

一方で、円安がもたらす悪影響も無視できない。原燃料の輸入価格が上昇し、電気料金などに転嫁されれば、企業や消費者の負担が増す。輸出企業も生産コストの上昇に直面することになる。また円の対外購買力の低下は海外事業拡大によってグローバル化を進める企業にとってはマイナスだ。

ではいったい、円の適正水準はいくらなのだろうか。

まず円安のプラス効果が期待ほど大きくないという事実を認識する必要がある。日本の貿易収支は既に大幅な赤字だ。円安が進めば輸入価格が上がってしばらくは貿易赤字は膨らむ。海外生産の拡大などで円安の輸出拡大効果が小さくなっているとの指摘もある。

次に内閣アンケートによる**輸出企業の採算レートは1ドル=82円**なので、現在の90円前後の水準で輸出企業はすでに相応の利益を確保できる。英エコノミスト誌が算出するビッグマック指数と呼ばれる**購買力平価は80円程度**だから、さらに円安が進めば、円は過度に過小評価されているとの批判が強まるかもしれない。

リーマン・ショック後の米国では、金融緩和に伴うドル安で輸出が伸び景気回復を支えた。その時のドルの下落幅は18%だった。円も既にそれぐらいは下がった。円は日本経済にとって**適度な水準に到達しつつある**と考えられるのではないか。

(山人)

## 輸出と採算レート (2012年9月14日)

為替は**1ドル=78円前後という高値水準に張り付いたままだ**。だが、自動車を中心として輸出は好調だ。自動車業界は「出血大サービス」をしているのか。そんなことはあるまい。

円高になると、よく「想定為替レート」が話題になる。「想定より1円の円高で△億円の減収だ」との声があちこちから上がる。しかし、大事なものは「採算為替レート」であることは誰にでも分かる。

内閣府のアンケートによれば、採算レートは非鉄金属が78.7円、化学が81.1円、輸送機械が83.8円などで**平均すると84円**。たぶんこの数字は控えめで、**実情はもう少しの円高に耐えられる**。

採算レートは常に修正される。かつては1ドル=360円で、輸出産業の現場は「円高克服の歴史」といってよい。カイゼンの日々はもちろんつらいが、取り組む以外にないのだ。努力をやめればそこで終わる。

そして場合によっては、また円安に振れる。85~86円に戻ってきたら、いまの努力は大きく報われる。**2008年9月のリーマン・ショック前の108円の水準**に戻ったら「ぼろもうけ」になってしまうだろう。

一部の大企業経営者は、経営責任から逃れ、社内の危機意識を高めるために「状況は厳しい」とマスコミ向けに発言を続ける。経営者団体も「大変だ」と広報する。かくしていつも悲観論が主流となる。

そして、企画や社長室長といった現場と遠い部門でキャリアを積んできた経営者は自分の声を正当化したり、メディアの声に惑わされたりする。その結果、努力している工場やカイゼンを続ける事業所を売却することがある。現場軽視の悲劇というしかない。(遠雷)

### 円高メリットはいずこへ (2012年8月14日)

2008年のリーマン・ショックでドル・円は1ドル=100円を割り込む水準になった。その後も円高は進み、**今夏は78円台**。これは、欧州債務問題や米国景気の低迷から欧米各国で追加的金融緩和に踏み切るとの観測が根強く、世界の資金が日本国債に向かっているからだろう。

では、この円高は日本に何をもたらしているのか。輸出業者の悲鳴が聞こえる中、日本の産業界や消費者は、円高のメリットを享受できているのだろうか。身近な輸入品、例えば輸入ワイン、外国車などの価格を見ても、値下げされている気がしない。

また、東日本大震災以降、火力発電の増加に伴う発電用燃料の輸入が大幅に増えているが、これらの燃料の輸入価格で果たして円高メリットを享受できているのだろうか。それとも、原材料価格が上昇して円高相応分が相殺され、円高メリットは打ち消されているのだろうか。

輸入されるすべての物価が上がっているわけではなく、確実に円高メリットを享受している人たちがいることは間違いがない。ところが、価格の決定要素はいくつもあり、複雑だ。個人や一企業が、為替レートが価格に正しく反映されているかどうかを調べることは容易ではない。価格への転嫁が適正に行われているかどうかを調べる組織や機関はないものかと思ってしまう。

輸入製品の中には、すでに価格競争力を持っており、円高値下げをする必要のないものもあろう。だが、国際的監視機関を設けるなどして「もうけ過ぎ」を牽制(けんせい)してもらいたいものだ。

円高が社会にもたらす効果も大きいはずだ。**このままでは、円高は日本経済にとって意味をなさない。**(QJ)